

ちよだ旅情 vol.1



江戸時代の組橋『江戸名所図会』国立国会図書館蔵より

神保町方面へ向かう道筋は開通しておらず、当初、組橋も主に近隣の人々が利用する小さな橋であったようです。架設された年代は不明ですが、明暦3年(1657)の江戸図にはすでに見られます。「組」というユニークな橋名の由来は、18世紀初期まで現在の飯田橋二丁目付近に御台所衆という幕府の役人が住んでおり、一般にこの辺を御台所町と呼んでいたことから(目白通り沿いの飯田橋一丁目交差点付近に「飯田橋散歩路 台所町跡」の碑があります)、御台所町の前にある小さな板橋を台所のまな板に見立てて、「組橋」と名付けたと伝えられます。

坂道や小路、橋、土地の通称などの多くは、江戸時代、その地域に住む人々の間で自然と呼びならわされたものから名付けられました。そこには歴史や文化のみならず、かつてここで生活した人々の記憶も刻まれています。地域を知り、学んでいく中で、普段、何気なく目にし、行き来する場所に刻まれた意外な歴史や先人たちの記憶の一端を発見できるかも知れません。

—こちらのコーナーでは、千代田区の地名や旧町名、名所、坂、橋などを紹介していきます。過去から現代へとつながる地域の歴史と記憶をめぐる小旅行へと出かけましょう。

徳川家康が幕府を開いて以降、江戸は將軍のお膝元、天下の総城下町として発展しました。それにともない、大名・幕臣が住居する武家屋敷や大江戸八百八町とうたわれる多くの町が生まれ、人々の生活に欠かすことのできない上水や道、運河、坂、橋なども整備されます。

九段生涯学習館の近く、靖国通り上の日本橋川に架かる組橋は、江戸時代から現在と同じ場所にありました。現在の組橋は昭和58年(1983)に竣工したコンクリート橋ですが、江戸時代、靖国通りのうち九段下から

シリーズ

千代田の学び人にあいたい vol.6

中田 弾さん [一般社団法人 D&A Networks代表理事]



前号の「学び人」ちよだボランティアセンター長・清水さん(左)からご紹介いただき、今回は、千代田区を拠点に、子どもや高齢者、支援が必要な方々に関わるイベントの企画・運営を行っている中田弾さん(右)に会いに行きました。



Interview Relay

清水さんから中田さんへのご質問「大学卒業後もどうして千代田区で活動することにしたのですか？」

学生時代は区内大学の建築学科に通っていました。大学3年生の時、子どものための空間作りについて勉強したいと思い、千代田区の小学校や児童館でボランティア活動を開始しました。大学卒業後も働きながら活動を継続する中、「区内には支援が必要でも放課後行く場所がない」という話を聞き、今までボランティアとして行ってきた活動をビジネスとして続けられないか、と法人を立ち上げました。関わり方が変わっても「人とのつながりは変わらない」という信頼があったからこそ今の活動に繋がっています。

D&Aの活動は大学生が中心で、現在約500人の登録があります。活動前には基本的な社会のルール等の講習会を実施しています。年間約450ヶ所のイベントを抱え、すべての現場に自分が行けないため、学生に任せることもあります。時間をかけて学生に現場で経験させ、管理運営する立場となれるよう育てています。

イベントを受注するときは自分が「楽しい」と思えるか、学生のためになるか、ということを重視しています。また、千代田区内に限定し活動しているからこそ、地域の方々と繋がる活動を大切にしています。企画をする際に心掛けていることは、参加した方が「初めての体験」をできることです。同じことの繰り返しはせず、参加者にとっての「発見」を大切にしています。

今も学生時代から変わらず、自分も学生たちと「地域に育てていただいている」という気持ちが強いです。千代田区のみならずから「もういいよ!」と言われるまでは活動を続けていきたいです。



編集後記 ▶▶▶ DanDan 編集室 柴寄

桜満開の九段に来てから半年。季節の移り変わりとともに、街の歴史・文化の奥深さを実感し、新たな出会いに魅了されています。何気なく渡っていた橋や都心の中で奏でられる音楽。どちらも歴史が刻まれ、人々によって繋がられてきたのだと再認識しました。

／ 九段から発信する生涯学習コミュニティペーパー ／

volume

18

TAKE FREE

DanDan

ありがとう、ゆっくり、まあるく かかわっていく

Discovery Chiyoda

九段LLカフェ講座では、「ディスカバリー千代田」を掲げ、千代田区が発信する新しい魅力や技術・歴史を、地域に根付いた企業や文化施設と関わり、ふれ合いながら発見する講座を開講しています。平成31年2月には丸の内にあるライブ・レストラン『COTTON CLUB』との講座を実施予定。それに先立ち、『COTTON CLUB』の魅力に迫ります。平成29年度の実施報告は、『DanDan vol.16』をご覧ください。



東京駅を降りて有楽町方面へ線路沿いを歩いて進むと見えてくるビルの2階。ほぼ専用のエスカレーターを上る途中、かつてNYで輝いていた当時を思い起こさせるモノクロの写真で胸が高鳴る。日が沈むころ丸の内のきらめきとともに幕が上がる『COTTON CLUB』は、2005年に千代田区丸の内に誕生した。その日その場所に居合わせた人々だけが味わうことができるライブは、ミュージシャン・観客・スタッフが三位一体となって作り上げており、いわば毎日が伝説であった。そんなCOTTON CLUBにディスカバリー千代田！

もくじ

- ① Discovery Chiyoda(ディスカバリー千代田) | COTTON CLUBの魅力に迫る
- ② 時と土地をめぐる ちよだ旅情 | 組橋
- ③ シリーズ | 千代田の学び人にあいたい



千代田区立

九段生涯学習館

こころを育み 明日へつなぐ

DanDan

DanDan 第18号
平成30年11月12日発行発行
千代田区立九段生涯学習館
〒株式会社小学館集英社プロダクションDanDan 編集室
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-5-10
TEL (03)-3234-2841 FAX (03)-3262-7460

P80

千代田区立九段生涯学習館

COTTON CLUB

Discovery Chiyoda

COTTON CLUBの魅力に迫る

COTTON CLUB(コットンクラブ) 〒100-6402 東京都千代田区丸の内2-7-3 東京ビルTOKIA 2F OPEN 17:00-23:00(土・日・祝のみ16:00-22:30) TEL.03-3215-1555 <http://www.cottonclubjapan.co.jp/>
写真[左]ライブの様子 [右上]ゆったり楽しめるボックス席 [右下]音が抜けるように工夫されたインテリア

COTTON CLUBならではの取り組みをお聞かせください

COTTON CLUBはこぢんまりとしていて、生音を体感できます。ジャズは生音を体感して初めて良さがわかと思っています。ビッグバンドの最初の一音とかしびれますよ。やっぱり、CDではわからない、体で感じるものがライブにはたくさんあります。音圧みたいなものだったり、その響きを五感で体感して欲しいです。例えばドラム

COTTON CLUB

マネージャー
宇部隆洋さん

セットの真後ろにも席があり、プレイヤーのテクニクを目の前で見られます。

また、可能性を秘めた旬なアーティストを呼ぶことが多いです。コアなジャズファンからすると、待ってましたというラインナップをご用意しています。だいたい3～4日続く公演が多いので、ジャズを愛している人たちがすごくかっこいいプレイを初日に見て、それをSNSなどで拡散してくれて、最終日になったら満席になって席がないというケースは多いです。

今までのイベントで特に印象に残っていることを教えてください

3.11東日本大震災の時は、本当に大変でした。日本に誰も来なくなってしまう、ライブは軒並みキャンセルになってしまいました。全然営業できなくて、余震も続き、気分的にはお店をたたむしかないぐらいにまでいっていました。そんな矢先に、ジャズピアニストの上原ひろみさんから「お店が全然営業できてないって聞いたので、私、盛り上げます」と連絡がありました。上原ひろみさんは「ジャズクラブがなくなること

は、日本の文化がなくなることになってしまう。海外のアーティストを呼べなくなったら私達は日本でジャズを気軽に聴けなくなってしまう」と。そのときは、本当に感動しました。当日のMCでも「こんな状況になっているけど、音楽は大事だし、続けていきましょう。みんなも元気になろう。盛り上げていこう」というお話をされていて、その時の方が一番印象に残っています。彼女が一番最初に手を差し伸べてくださり…本当にありがたいです。

店内の知る人ぞ知るポイントがありますか？

まずはピアノですね。このピアノはとても大事にしているので、湿度管理や温度管理など、徹底しています。とにかく嬉しいのは、「本当にここのピアノ綺麗だし音も鳴るし、最高だよ。大事に使っているよね」と褒められることです。イチローじゃないですけど、道具を大事にしています。調律についても、アーティストの情報をキャッチし、音響スタッフと調律師で常にコミュニケーションをとり、ピアニストのタッチから考えて調律しています。

あとは、BOX席の後ろや椅子の下など、格子になっています。これは、音が全部抜けるようになっているんです。反射しないように。まさに知る人ぞ知るポイントですね。いたるところに音へのこだわりが詰まっています。エアコンの音も雑音になるので、“本番が始まる何分前に止める”ということも全部決まっています。

地域との繋がりや子ども向けイベントなど、枠を広げていく取り組みの意図をお聞かせください

やはり“きっかけ”が大事だと思っています。とにかく良いプレイを観てもらいたい。理論で説明されてもおもしろくなく、身体で感じる機会をつくりたいと思っています。ガンガン叩いて出るドラムのこげついたにおいやプレイヤーの表情。お互いが何度もアイコンタクトを取ってその日の気分で創りあげていくのが、ジャズの自由でかっこいいところだと思います。とにかく、「音楽」を五感で体感して欲しいと思っています。

COTTON CLUBの役割とは？

ある意味、甲子園球場と一緒にだと思っています。野球をやっている子達が甲子園に出たって言うように、ミュージシャンがいつかこのステージに立ちたいという場所。憧れの地であり、いわゆる甲子園であれば阪神園芸さんがずっとマウンドを綺麗にしているのと一緒で、ミュージシャンにもお客様にも良い環境で過ごしていただくために、私達も常に努力をしています。お客様にも、わくわくして来てもらえる「特別」な場所でありたい。白熱したプレイを観客も真剣に聴き、さらに時にはスタッフが盛り上げ役になる。そうやって三位一体となってその日のライブを創りあげています。どれか一つが欠けてもダメなんです。ミュージシャンも、お客様の方をまったく見ないで、ただ好きなように弾いていたら何もおもしろくない。それなら家でCDを聴いていることと変わりません。“ライブ”にすることが大切だと思っています。ミュージシャンと観客が常にキャッチボールをすることが、ジャズライブの醍醐味で

五感で体感する 大人の音空間

editor *** Yurika Ota[chief], Miho Shibasaki, Satomi Nagayasu, Kanako Suzuki, Hidekatsu Hirata design *** Kotaro Kawahara

すし、盛り上がっていないなら「アップテンポにしようかな」とか「ピッチ上げようかな」とか、まさにその日その瞬間の音楽を楽しめる場所が、COTTON CLUBなんです。ミュージシャンがそのような探りをしつつ、それをサポートすることが私達スタッフの役割です。ソロ終わりで拍手をしたり、スタンディングで踊ったり、それが自然にできるよう意識しています。ミュージシャン・観客・スタッフ全員の憧れの地であり続けることこそ、COTTON CLUBの使命だと思っています。ブランドをしっかり大切にし、お客様を常に大事に、雰囲気をちゃんとつくる。憧れの地にきて、従業員がだらしないと、がっかりさせてしまう。プロとして、文化をつくっていかなくてはいけないという使命は常に持っています。

最後にメッセージをお願いします

千代田区は良いスポットが沢山ありますよね。COTTON CLUBとしては、絶対「体感」して欲しいです。CDじゃない、身体で、五感で感じて欲しいです。お越しいただければ、その良さをわかっていただけると思います。